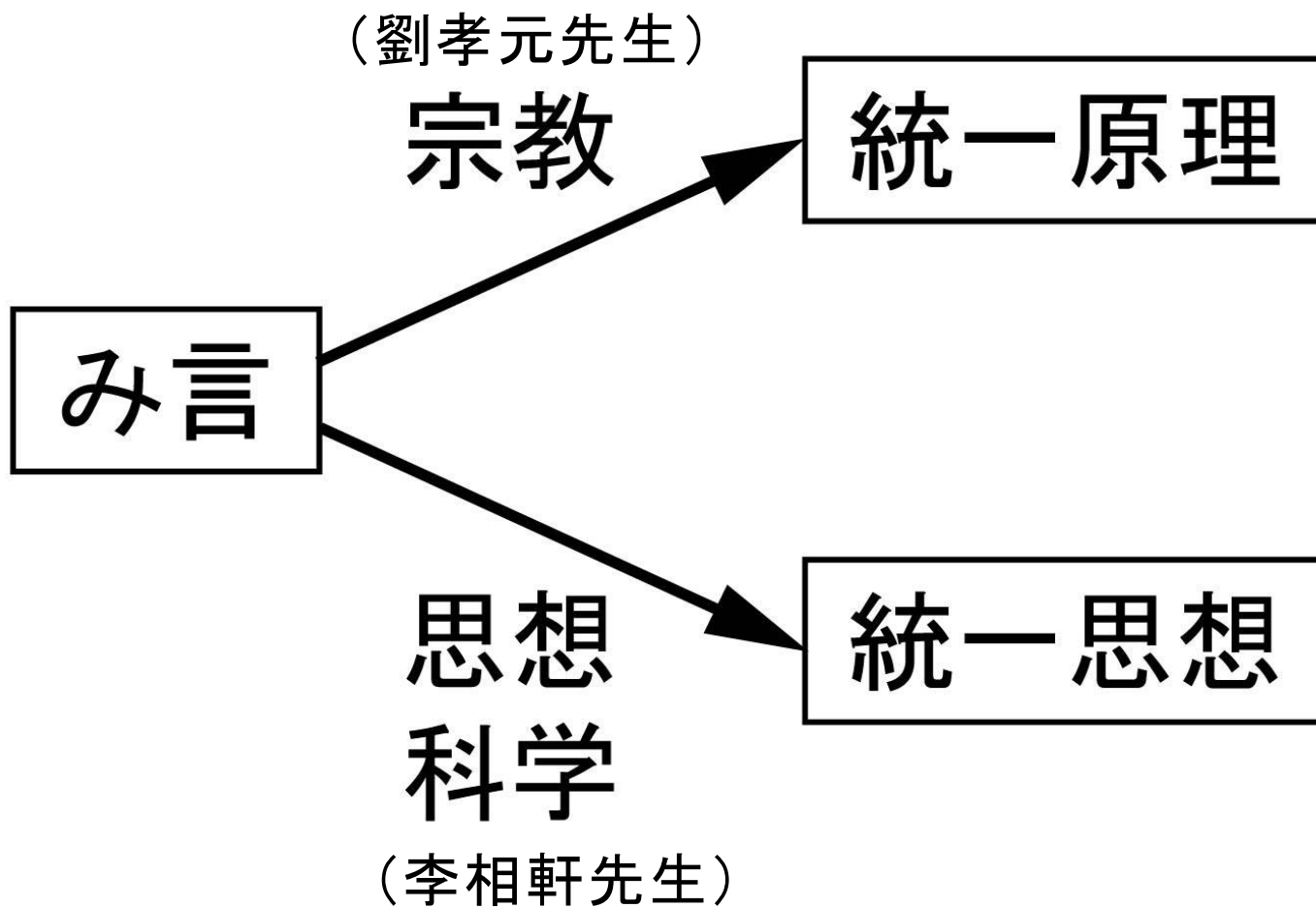


統一思想序論

統一思想研究院



1914.9.5 — 1997.3.22



統一思想の時代が来る

1958年、私の入教地である群山に先生が巡回に来られた時、7、8人の食口が集まった中で、「将来、統一主義の時代が来る。統一思想の時代が来る」とおっしゃった。私は特に思想に関心があったので、他の人ももちろんこの言葉を聞いたが、その言葉は一番私の心に深く刻み込まれたのである。

李相軒 『ファミリー』 1989年9月号

天は地をさがし、地は天を求める

私の群山の時代のことですが、文先生が「天は地をさがして下りてくる。地は天を求めて上ってゆかなければならない。」と言われました。

非常に象徴的な教えでしたが、そのことを私は私なりに、「天とはメシアのことである。天が地に下りてこられる時、その場所(世間的な知識)は聖別されていなければならない。従って、世間的な知識を聖別して天に捧げ、天と地を結ばなければならない。」という意味に解釈しました。罪悪世界の世間的な知識を神は本来は必要としないのですが、罪悪世界の人を救う為には、その知識や思想を聖別して用いるのが天のみ旨であると悟ったのです。

天に捧げる理論研究

それで私は罪で汚れた世間的な知識を復帰して天に捧げる決意を固め、今日まで理論を扱ってきました。そこに自分の知識だという意識があれば、絶対に聖別されません。

ですから皆様も理論研究を行う時、その研究した論文や資料を、供え物を捧げるような心情で、天に捧げなければいけません。真心を尽して、お祈りをして、一番良いものを捧げたとき、天は受け取られるのです。

もし皆様の研究や資料が自分の名誉や出世の為になされたものであれば、それは聖別されたものとはなり得ず、個人の成果として止まるだけでしょう。



第一回日韓教授親善セミナー
(八月三日)

第一回日韓教授親善学術セミナー1971. 8

統一思想研究院(UTI)の創立

- 1972.8.20 韓国統一思想研究院創立
- 1972.10.1 日本統一思想研究院創立
- 1972.11.23 科学の統一に関する国際会議
(ICUS)創立
- 1973.5.6 韓国・世界平和教授アカデミー
(PWPA)創立
- 1974.9.28 日本・世界平和教授アカデミー
創立

「統一思想研究院」を創設して思想界を指導

尊敬する指導者の皆様。私はこれまで神様の召命を受けてみ旨に従い、千辛万苦の中で、各分野に平和安着のための基盤を築いてきました。三十年以上も前から、「統一思想研究院」を創設して思想界を指導し、また絶対価値の探究と諸学問の調和統一のための「科学の統一に関する国際会議」を1972年から年ごとに三十回近く開催してきました。

神様と平和統一世界、2002年12月27日

アメリカ、ワシントンDC、シェラトン・ナショナル・ホテル

「世界平和超宗教超国家連合」聖職者会議、(『平和経』183)

「世界平和教授アカデミー」の創設と持続的な支援、「世界平和のための頂上会議」、「国際勝共連合」、「カウサ(CAUSA):南北米統一連合)」、「世界平和連合」、「世界平和島嶼国家連合、半島国家連合、大陸国家連合」、「南北統一運動国民連合」などの超国家的な平和運動、各種文化芸術振興運動、スポーツを通じた平和運動、小、中、高、大学などの教育機関の育成、「世界平和女性連合」活動、責任言論と道徳言論具現のための各種言論機関の設立、「世界大学原理研究会」、「世界平和青年連合」、「青少年純潔運動」、「環境問題国際会議」、「国際救護親善財団」、「サービス・フォー・ピース(Service for Peace)」、「宗教青年奉仕団」、「ボランティア愛苑」、「世界NGO(非政府機構)連合」、祝福と真の家庭運動、天が願われる国連の平和理想の目的に対する支援と刷新運動など、救国救世運動を汎世界的に展開してきました。(『平和経』183)

統一思想は万能の鍵

「神の真理は一定の摂理的人物を通じて地上に伝達されます。神の真理は絶対真理であります。絶対真理は万能のキー（鍵）のようなものであって、この真理を適用すればいかなる難問題をも解くことができるのであります。私はかつて長いお祈りと瞑想の生活において、ついに実在する神に出会い、この絶対真理を授かりました。それは全宇宙と人生と歴史の背後に隠されたすべての秘密を明かにした驚くべき内容でありました。この内容を社会に適用すれば、社会問題が解かれ、これを世界に適用すれば、世界問題が解けるのでした。のみならず、宗教の未解決問題、哲学の未解決の問題も解けるのでした。……」

「特にこれを共産主義の理論批判に適用したとき、共産主義のすべての虚構性が白日の下に暴露されると同時に、共産主義に対する代案も立てられるのでした。またダーウィンの進化論批判に適用したとき、進化論の矛盾が明かになり、それに対する代案も立てられるのでした。これはかつてなかった新しい人生観、世界観であり、新しい摂理観、歴史観でありました。この真理はまたすべての宗教教理や哲学の特性を生かしながら、全体を一つに抱擁し得る統合原理でもあったのです。私はこの思想を統一思想または神主義と名付けました。」

（文鮮明、1985年12月16日「国際勝共安保決議大会」）

神様を哲学で論ずる統一思想

今日人間が哲学の問題から見るならば、人間の意識観念というものは必ず相対的な関係をもっているのですが、そこにおいて、どれが主体なのかという問題をもって論じてきました。しかしながら統一思想で語るなら、我々はそのような次元を越えて、神様までも、どのように認識するのかということを哲学で論ずることができる段階まで開拓したのです。これは言葉で語ることができないほど、驚くべき事実なのです。この新しい次元の、立体的な哲学とも言える統一思想を我々は学んでいるのです。

真のみ言で偽りのみ言を屈服させよ

世界的にもつれていっているすべての思想を片づけてしまい、社会的な腐敗を清算し、サタンが立てた悪の都城を全部屈服させることのできる実力を備えなければなりません。私たちにはそのような人物が必要です。そして、神様の真のみ言を中心とした真理をもってサタンと対決し、偽りのみ言を屈服させ、サタンの霊魂まで屈服させることのできる人格を備えなければなりません。

文鮮明『訓教経（上）』499頁

既存の思想と闘い、勝利しなくてはならない

天が願われる平和な世界をきずくためには、まず思想界において、頂上の位置を占めなければなりません。これが第一の課題です。思想世界には哲学思想、宗教思想等様々ありますが。闘争して勝利し、頂上の位置まで上がらずしては、平和な世界を指導する道が生じません。

文鮮明 「統一思想と21世紀のビジョン」1986年3月
14-20、全国大学教授招聘講演会

思想世界において頂上に立たなくてはならない

平和の世界を成すには、どのようにしなければならぬのでしょうか。全世界的に見るとき、思想世界において頂上の位置を占領しなければなりません。これが一つ目の課題です。思想世界には、哲学思想、宗教思想、あるいは様々な他の思想がたくさんあります。ここで闘争して勝利し得る頂上の位置まで上がらずしては、平和の世界を指導できる道ができないのです。これが一つ目です。

一番にならなければならない

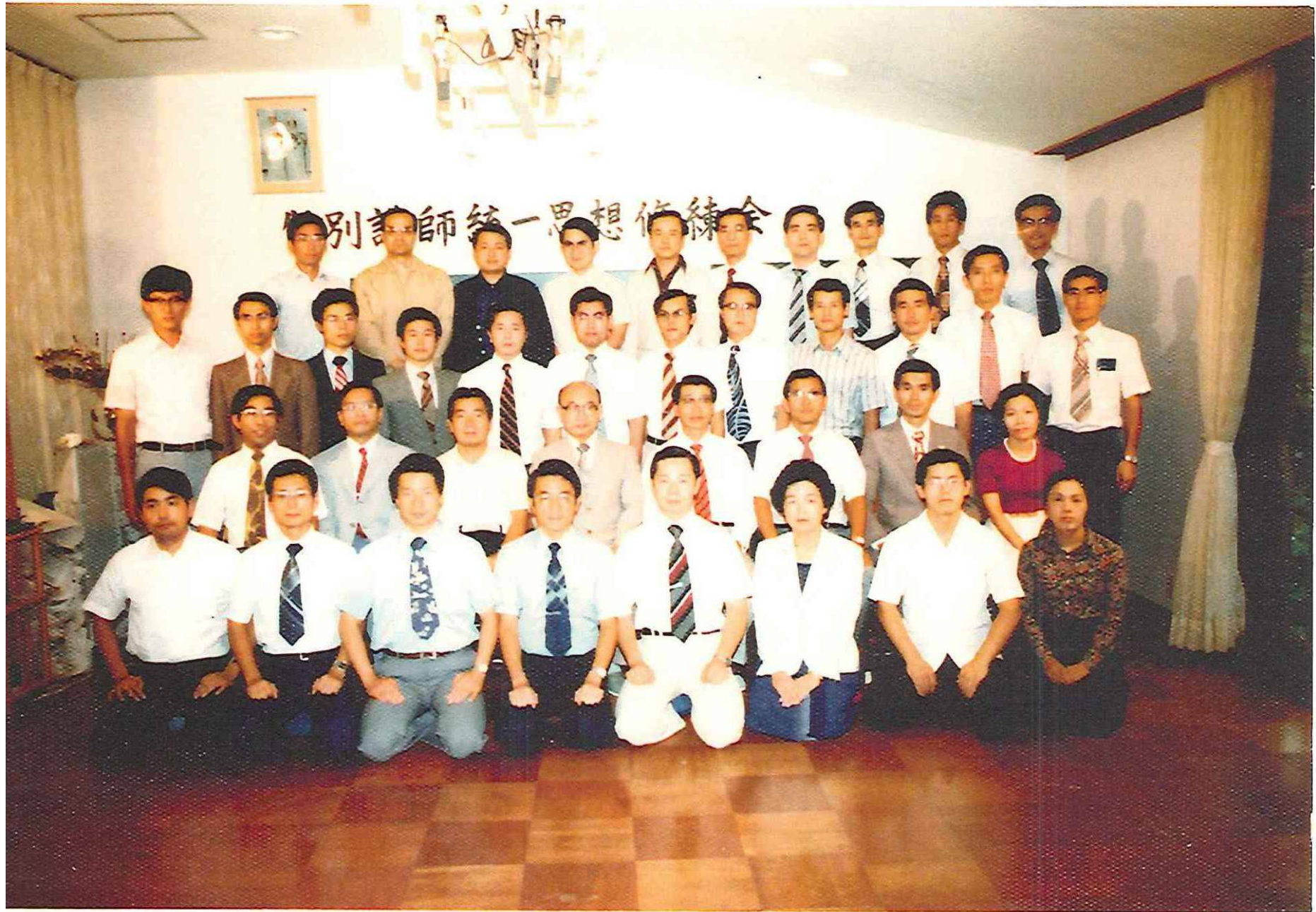
今回、この修練をするのも、「統一教会が一番だ」と言っているのですが、それを本当に一番になることができるようにするためです。どこに行っても、学者世界に行っても、弁論して、押しつぶしてしまわなければなりません。それは、言葉だけではいけません。

(文鮮明、2001.8.25 世界指導者統一思想・勝
共理論修練会、濟州国際研修院)

ノーベル賞をはるかに凌駕する統一思想

それで、先生のしてきたことが主に何であるかという、統一教会の思想的勝利の覇権の位置を築いてきたのです。世界的な、宇宙的な覇権の位置を築いてきたので、今ではもう思想的基準においては統一教会を凌駕することはできません。共産主義もそうであり、哲学もそうであり、民主主義世界の、どこかの大学の天才的な教授が、ノーベル賞を十個、百個、持っていたとしても、統一思想を凌駕することができる人はいないということを知らなければなりません。

(文鮮明、2002.1.1 「真の神の日」記念礼拝)



特別講師統一思想修練会 1979年、伊豆セミナーハウス



特別講師勝共思想修練会 1979年、伊豆セミナーハウス



特別講師のための統一思想・勝共理論セミナー
1989年、UTSベリータウン

I . 科学者会議 (ICUS) における 統一思想

統一思想研究院 (UTI) と科学者会議 (ICUS) は、1972年に相ついで創立されました。ノーベル賞教授をはじめとする著名な教授たちが、やがて統一思想を受け入れて、み旨に貢献することを願って出発しました。

「科学の統一に関する国際会議」 に参加した教授たち

お父様に対して気に掛けつつ、今まで甲論乙駁しながらいろいろと批判していた人々が、「科学の統一に関する国際会議」に参加し、私たちのことを宣伝する状況までになりました。大学で理論的な人、哲学を研究するとか、宗教や思想を研究する人が何人かだけ私たちのことを宣伝するようになれば、自然科学や社会科学を研究する人々は、そのまま付いてくるようになります。

ですから、その教授たちが私たちの教会に対してある程度関心をもつようになれば、大学原理研究会の活動を何としてでも急進的に展開して、彼らをここに連結させることを考えています。原理研究会の機動隊をつくって出動（伝道）させたのも、彼らを連結させるためでした。（『父母経』413）

「統一原理」の最後の勝敗は、世界的な学界によって決定される

大学内で、共産思想をもった赤色分子たちが浸透する路線を、勝共活動をして事前に封鎖しようというのです。このような点で、大学原理研究会のすべき仕事が、どれほど重要なことかを知らなければなりません。

「統一原理」の最後の勝敗は、世界的な学界によって決定されます。それゆえ、「統一原理」を世界に提示するためには、まず国内の各大学の宗教学科や哲学科の権威ある教授たちに「統一原理」を紹介しなければなりません。そうして、この教授たちが「統一原理」を世界の学界に提示し、世界化できるようにしなければなりません。そのようになる前に、私たちは、対内的、対外的に基盤を築いておこうというのです。(『父母経』414-5)

学問的で思想的な土台を中心に

大韓民国の政府当局が、私たちの活動に対して「勝共」という名称を認定したのは、ヤコブがヤボク川のほとりで天使と競って勝つことによって、イスラエルという名前を得たのと似たような事例です。このような点から見て、み旨を成就できる勝利の立て札は、既に立てられたと考えます。今や縦的な勝利の基準はできたので、これを基盤として横的にも勝利すべき組織が必要です。キリスト教だけではできません。

世界を統一の理念で復帰しなければならないのです。このためには、学問的で思想的な土台を中心に行わなければなりません。このような一連の活動を具体的に調べてみれば、思想を中心に学界と関連づけて展開しているのが勝共運動であり教会を中心に展開しているのが対外伝道活動であり、学生を中心に展開しているのが大学原理研究会の運動です。(『父母経』414)

「統一神学」と「統一思想」が、新しい思想体系の基礎になる

私は、「科学の統一に関する国際会議」で行った演説を通して、「統一神学」と「統一思想」こそが、神様を中心とした、統一された新しい思想体系の基礎になると宣言してきました。この理念によると、人間は存在自体として価値を所有しようとする本性をもっています。そして、人間は、神様との間に、親子という唯一の関係をもつようになっているのです。したがって、すべての人は、真の愛の関係を確立しようとする神様の創造目的に立脚した明確な価値観をもって人生を生きていくように創造されたのです。そこで私は、私たちの追求する絶対価値は、神様の絶対的な真の愛に基づいているという事実を提案しようと思います。……

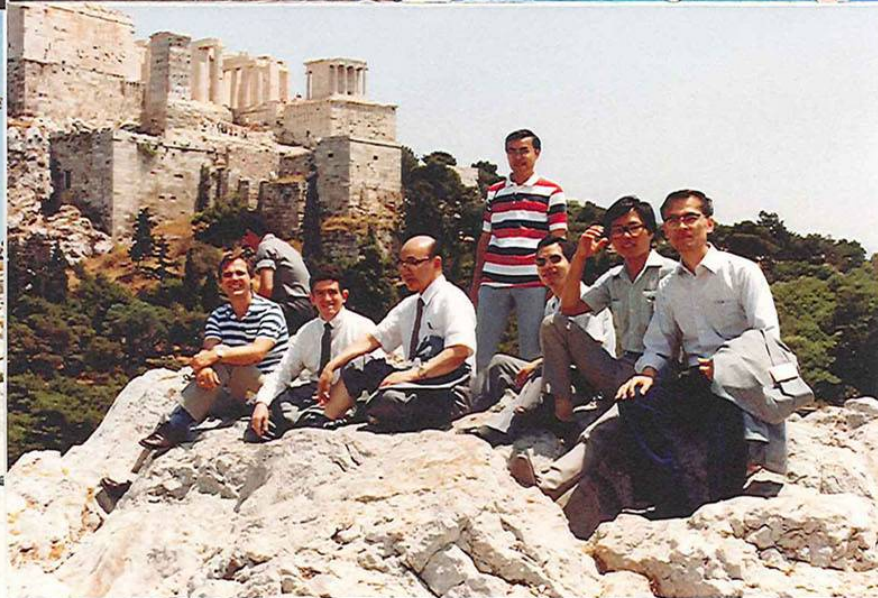
世界の問題に対する解決は、このような人間存在に対する全般的なアプローチによってのみ可能になるのです。断片的なアプローチの姿勢とその理想との衝突よりは、集合的な知恵と知識を中心とした調和の取れた努力が、この会議にお集まりになった著名な学者の皆様に求められているのです。私はこの会議が、神様が世界をおつくりになられた時に実現しようとした理想のために寄与することを心より願います。皆様の努力が、真の愛と善と平和と幸福の世界を成し遂げる、新しい文化革命の実現に、必ず貢献することを願います。(『平和経』777)

真のお父様がICUSに願われた夢

かつて真のお父様は「将来、ICUS（科学の統一に関する国際会議）のすべての分科会において統一思想が論じられるようになり、全体会議において、世界の問題を解決することができるのは、統一思想だけであるということが結論されるであろう。そしてその様子は、宇宙中継によるテレビで全世界に報道されるであろう」と語られたことがあった。

（李相軒「ICUSレポート」 中和新聞 1992.10.1）

- しかし、その道は容易ではありませんでした。最初の12年間、ICUSの中で統一思想が論じられることはありませんでした。
- 真のお父様の指示により、1984年、ギリシャのアテネで、李相軒先生がICUSを代表する哲学教授たちに統一思想を紹介されました。李先生は、現代のソクラテスのような立場から、絶対価値を訴えました。



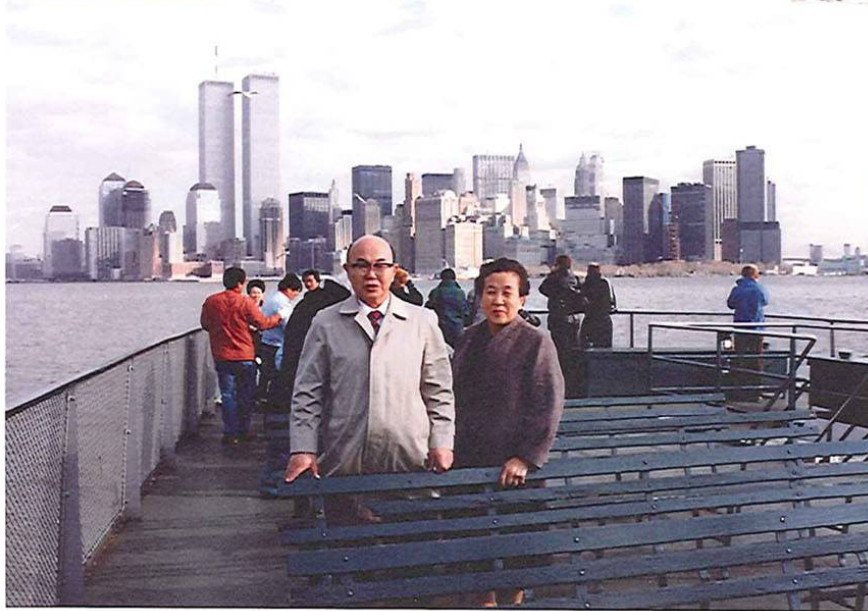
李先生がICUSを代表する哲学教授たちに統一思想を紹介
1984年6月、アテネ(ギリシャ)

- 1984年9月、ワシントンで開かれた第13回ICUSの第7セッション「グローバル・イデオロギーの探究」において、李先生が初めて統一思想の立場から論評をされました。



「グローバル・イデオロギーの探究」
第13回ICUS、1984年9月、ワシントン

- 1986年の第15回 ICUSと、1987年の第16回 ICUSにおいて、「世界哲学におけるエキュメニズムに向けて」という分科会において、李先生は名誉議長を務めました。

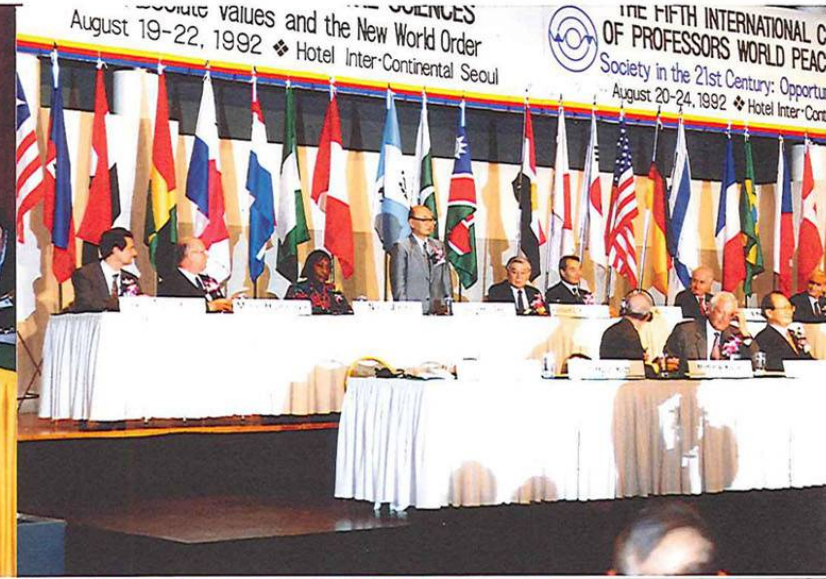


「世界哲学におけるエキュメニズムに向けて」
第15回ICUS、1986年11月、ワシントン

- 1991年の第18回ICUSから、1995年の第20回ICUSにおいて、ようやく「統一思想」の表題を掲げた分科会ができて、李先生は名誉議長を務められました。
- しかし、残念ながら、ICUSの全体会議で、統一思想が評価されるという、真のお父様と李先生の夢は実現されないうまま、ICUSは中断されてしまいました。



「統一思想と世界的意識の変革」
第18回ICUS、1991年8月、ソウル



「統一思想における理念と実践」
第19回ICUS、1992年8月、ソウル

ICUSの再開

- この度、真のお母様の指導の下で、ICUSが再開されました。「ICUSの全体会議において、統一思想によって世界の問題が解決される、と結論される」という真のお父様と李先生の夢の実現に向けて、UTIは前進してゆきます。

Ⅱ．国際統一思想シンポジウム

1983年に李相軒院長によって、教授が統一思想に基づいた研究発表を行う国際統一思想シンポジウムが始められました。最初は韓国と日本の教授の研究会としてはじめられましたが、その後、台湾、フィリピン、アメリカの教授が参加するようになり、文字どおり国際シンポジウムになりました。



第1回国際統一思想シンポジウム、1983年濟州市



第2回国際統一思想シンポジウム、1984年沖縄



第7回国際統一思想シンポジウム、1990年東京

- 1990年に開かれた第7回国際統一思想シンポジウムでは、ICUSの統一思想に関する分科会の代表的な三人のRubenstein教授、Sontag教授、Foster教授が参加されました。



孝進様、Rubenstein教授、Sontag教授、Foster教授



第11回国際統一思想シンポジウム、1999年、マニラ(フィリピン)
アロヨ副大統領(当時)を迎えて



第12回国際統一思想シンポジウム、2000年、台北（台湾）

2001年より旧共産圏においても、国際統一思想シンポジウムを開催することになりました。2001年にはプラハ(チェコ)で、2003年にはモスクワ(ロシア)で、2004年にはソフィア(ブルガリア)で開催しました。



第13回国際統一思想シンポジウム、2001年、プラハ(チェコ)



第15回国際統一思想シンポジウム、2003年、モスクワ（ロシア）



第16回国際統一思想シンポジウム、2004年、ソフィア（ブルガリア）

2004年にブルガリアで第16回国際統一思想シンポジウムを行いました。奏成培院長が真のお父様に報告をしたところ、「次回から日本で規模を2倍にしてやりなさい」と言われました。そこで2005年に東京で世界の教授が120名参加して、第17回国際統一思想シンポジウムを開きました。

シンポジウムのテーマは「科学の統一と統一思想」で、科学の統一に関する国際会議(ICUS)の目標が統一思想によって達成されることを目指すものです。



インド統一思想研究院創立、2002年8月29日



モンゴル統一思想研究院創立 2004年1月31日



第17回国際統一思想シンポジウム、2005年東京



第18回国際統一思想シンポジウム、2006年東京



第19回国際統一思想シンポジウム、2007年東京



第20回国際統一思想シンポジウム、2008年東京



第21回国際統一思想シンポジウム、2009年、千葉浦安市



第22回国際統一思想シンポジウム、2010年、千葉浦安市



第23回国際統一思想シンポジウム
2011.12 浦安市・一心研修院



第24回国際統一思想シンポジウム
2013.3 浦安市・一心研修院



第25回国際統一思想シンポジウム
2014.2 浦安市・一心研修院



第26回国際統一思想シンポジウム
2016.1.30-31 浦安市・一心研修院



スワラップ(Swarup); インドUTI代表



**ダッシュプレフ(Dashprev); モンゴルUTI代表
モンゴル哲学・社会学研究所所長**



**カルチェフ(Ivan Kaltchev): UTIブルガリア代表
東南ヨーロッパ哲学会会長**